

●「みんな」ってどれくらい？

「皆持っているから自分も欲しい！」スマートフォンを欲しがると子どもたちの常套句です。さて、「皆」の正体が、どのくらいなのか、保護者の皆様、先生方はご存じでしょうか。2019 年度、札幌市で実施したアンケート結果（児童・生徒計 2488 人対象）によると、スマートフォンの所持率は小学生が 4 年生 19%、5 年生 36%、6 年生 39%となっており、中学生は 1 年生 74%、2 年生 73%、3 年生 77%です。これらの数字が「皆」の正体という事です。

●持たせるのはいつから？

アンケート結果（2019 年度実施札幌市小学校保護者 146 人対象）によると、保護者の 41%がインターネット接続機器を「持たせる時期はいつにするか」と悩まれています。ただ、この悩みに正しい答えはありません。例えばスマホ購入を考える際、大切なのは、「いつから」ではなく、「何のために必要なのか」を考えることです。子どもたちの生活は塾や習い事、部活などで多様です。ご家庭それぞれで適切な使用開始時期を考えてみてください。

●WHO が「ゲーム障害」を疾病分類へ

子どもたちがついついやり過ぎてしまうゲーム。WHO（世界保健機関）は 2019 年 5 月に「ゲーム障害」について、国際疾病分類に認定しました。(1)ゲームをする時間や頻度を制御できない(2)ゲームが他の関心事や行動に優先する(3)問題が起きても続ける(4)個人、家庭、学業、仕事などに重大な支障が出ている。このような状態が 12 か月続いた場合、ゲーム障害と診断されます。やり過ぎかな？と思ったら、まずは使用時間を振り返ってみましょう。

●年齢にあったアプリやサービスを

子どもたちに大人気の動画サービス「YouTube」。アンケート結果（2019 年札幌市児童・生徒計 2488 人対象）によると、小学 6 年生の利用率は 90%です。実は利用規約に「本サービスを利用するには、13 歳以上である必要があります」と明記されています（2020 年 2 月時点）。つまり、13 歳未満には適正ではない内容が含まれている可能性があるという事です。各アプリやサービスを子どもたちに使わせる前に、それらが年齢にあったものかどうかをしっかりと確認しましょう。

●ネットの「ひのわ」

誰もが自由に情報を発信できる SNS。使い方を間違えると、自分自身や他人を傷つける道具にもなり得ます。子どもたちをインターネット投稿のトラブルから守るために、『ネットのひのわ』を知っておきましょう。ネット投稿は世界中に「ひろがります」。そして「のこります」。また、誰が投稿したのか「わかります」（完全な匿名性ではありません）。これらインターネットの特性を知り、投稿する前に思い出してほしいと思います。

●ネットの向こうの人

近年、SNS やオンラインゲームの普及により、子どもたちが知らない大人と出会い、被害にあう事件が増えています。2019 年度札幌市で実施したアンケート結果によると、小学 4 年から中学 3 年の計 2488 人中、97 人の子どもたちが「インターネットで知り合った人に、実際に会いに行ったことがある」と答えています。子どもたちが SNS やゲームで誰とどんな話をしているのか、またネットで出会うことの危険性について、ご家庭で話していただきたいと思います。

●ご家庭でのルール、「ルールを守れなかった時のルール」も設定を

インターネット利用についてのルールは子どもたちと話し合っ一緒に作る事が守れるルールを作るコツです。しかし、守れなかった時のルールは決めていますか？例えば、「守れない場合はスマホを預ける」等です。そして子どもがルールを破ってしまった時には実行してください。「今回は見逃すけど…」と保護者の方が決めたルールを守らない場合があります。子どもたちの安全を守るため、保護者の方も毅然とした態度でルールを守りましょう。

●心の SNS（承認・認識・相談）

言葉の使い方や理解がまだ成熟していない子どもたちが、安易に LINE 等のトークアプリで文字のやりとりをする事で起こるコミュニケーショントラブルが多発しています。トラブルは早期の対策が大切。時間が経つほど傷は大きくなります。子どもたちに何かあった時「心の SNS」で子どもたちがすぐに安心して相談できる環境をご家庭で作りましょう。S（子どもたちの気持ちを承認）、N（子どもたちの興味や関心を認識）、S（相談しやすい雰囲気）。

●子どもたちが使っているサービスを知っていますか？

子どもたちはスマホで様々なアプリやゲームを使用しています。知らない人とコミュニケーションが取れるアプリや、子どもたちには暴力的で刺激的な描写があるゲームも存在します。全てが悪影響ということではありませんが、「うちの子はしっかりしているから大丈夫」と思わず、子どもたちがどんなアプリでどんな遊びをしているのか知り、危険性について考えてみましょう。

●善意のフェイクニュース

「近所の●●公園で、刃物を持った男が現れたらしい。子どもたちが危ないから、この情報を回して！」このような情報が皆さんの SNS に、しかも信頼する友人から届いたら、どうしますか？信じて他の人に情報を回してしまいますか？それとも、ニュースが真実かどうか確かめますか？正解は後者ですが多くの大人もこうしたフェイクニュースに騙されています。ネットの情報には嘘が紛れていることをまずは私たち大人が忘れてはいけません。